

# 大人と子供の かかわり見聞録

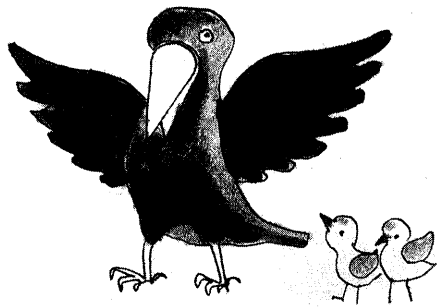
大多和 檀

〔その1〕

子供が三人——兄・姉・妹と思われまます——プールで遊んでいます。お兄ちゃんはず中メガネをしています。お姉ちゃんと二人で何やら楽しそうに潜ったり、追いかけてっこをしたり。水中メガネは二人で使っています。はじめは二人にそって動いていた妹（四歳位）が二人から離れてプールの縁につかまりました。兄姉に背を向けて。ずっとそこにいます。

で、上にあがりたいのにあがれないのかと心配になってきました。でもお母さんはプールサイドの寝イスで本を読んでいます。

十五分位たった時、お母さんはプールに入り静かに妹の所に来ました。そしてその場でそっと抱きあげました。よしよしという感じで、背中をなでながら。しばらくそうしてから抱っこしたままプールサイドにあがってきました。二人で何やらお話しして



います。その様子を兄姉は時々見ていました。五分程たつと妹は再びプールに入りました。するとお兄ちゃんが妹に水中メガネを貸してあげたのです。三人で潜ったりふざけたりが始まりました。お母さんは本を読み始めます。妹は水中メガネを貸してもらったのでしよう。

とても嬉しそうな顔をしていました。しばらくするとお兄ちゃんに水中メガネを渡し、遊びは続きます。

### 〔その2〕

生後十か月位の赤ちゃんを抱いたお母さんがプールに入って来ました。初めての体験らしく、赤ちゃんは固い顔をしてお母さんにしがみついています。お母さんは、少しずつ少しずつ水の中に赤ちゃんを入れます。赤ちゃんがしがみついて来ると身体を水から引き上げます。何回かくり返すと、赤ちゃんは手をバタバタし始めました。お母さんは、赤ちゃん

の抱き方を変え、バタバタしやすいようにしたり、手を伸ばした方へ進みます。これも何回かやると、今度は水の上の方へざっと抱き上げました。新しい事で赤ちゃんの顔が引きつります。そうするとお母さんはやめます。また、バタバタをやらせています。再び高い高いをやると赤ちゃんは笑いました。お母さんは数回高い高いをやってあげています。こうして十分位たつとお父さんがやって来ました。「赤ちゃんがこんな事したのよ」と嬉しそうな顔で話すと、赤ちゃんをお父さんに渡し、お母さんは気持ち良さそうに泳ぎ始めました。お父さんと赤ちゃんはプールの中でそれを見えています。ひと泳ぎしたお母さんは、再び赤ちゃんを抱き取り、三人ともプールサイドに上がりました。

### 〔その3〕

電車の中で男の子（七歳位）が「買ってよ」「今度は買ってくれるって言ったじゃない」「どうして

買ってくれないんだよ」と言い続けながら泣いています。お母さんは少し離れた所に立ち、「いいかげんに泣きやみなさい」「あなたもしつこいわね」「恥ずかしくないの」と、イヤな顔をして言っています。だが、そのうち黙ってしまいました。男の子は少しも泣きやまず「なんでだよ」「なんか言っつてよ」と泣きながら言い続けます。母「お父さんに聞いてから」子「なんでもお父さんに聞きなさいって言うんだもん」「お母さんに聞いているの」

十駅過ぎる間中泣き続け、言い続け、お母さんは外に視線をむけ続け、その状態のまま、電車から降りていきました。

#### 〔その4〕

ホームで女の子（五歳位）が何か言いながら泣いています。電車が来て、お母さんは、子供を座席に座らせると、その前にしゃがんで、子供の顔を見ながら何か話して聞かせています。女の子が言葉をは

さむと「まだ」と言う様に子供の口を押さえ、お母さんは話します。終わると、子供が泣きながら話し出しました。お母さんは顔を見ながらよく聞いています。そして又お母さんが少し話すと、女の子は泣きやみました。お母さんは立ちあがってニコリ笑いかけました。

〔その3〕の親子は電車を降りたあとどうなったでしょう。きっと「電車の中であんなに泣いて」と怒られたことでしょう。何も大人から応えてもらわないうままに、何も解決しないままに。

〔その1〕のお母さんは、兄姉には何も言いませんでした。妹にも、そっと背中をなでて抱いてあげただけです。でもお兄ちゃんにはメガネを妹に貸してあげました。妹も満足しました。

〔その2〕のお母さんは、赤ちゃんにそって動いて決して無理はせず、赤ちゃんも満足、お母さんも満足していました。

「その4」は、お互いに話を真剣にし、きちんと大人の話の子供に聞かせています。お母さんは問題を避けていません。

「その3」のみ日本人の親子で、あとは外国人の親子でした。

「人の振り見て、わが振り直せ」です。

大人として、自分の生活を確立しているか、自分の生き方をしているかが、子供へのかかわり方に大きく影響しているのではないかと思います。

お父さん、お母さんが、二人の生活をきちんと持つているか。保育者自身がどのように友達とのかかわり、職場内での人間関係をもっているか。

お父さんは仕事に忙しく、お母さんも何かと忙しく、保育者は自分の時間も持てない程忙しく、こんなに忙しい大人にかこまれた子供達。こんなに忙しい大人に、自分の生活、自分達の文化が持てるはずがありません。

子供達には基本的には「土」と「太陽」と「水」と「時間」が必要、というのが、私の持論ですが、今や、大人にも「土」「太陽」「水」「時間」が必要なのだと思えます。

「土」「太陽」「水」をもとめて「時間」を使うことが、今のところの私の夢であり、私の保育かもしれません。

(港区立港南幼稚園)